

ふる里歴史散歩みち

地域発見マップ



■新井原の地藏様

竜丘のあゆみ

竜丘地区は天竜川に沿って、東南に面した右岸段丘上に位置し、飯田市の南寄り、下伊那地方のほぼ中心地にあたります。

また地区の上段部の伊賀良地区に接するあたりは林野地帯となっていて、特に上川路、桐林区の一帯は、市天然記念物のギフチョウの生息地として知られています。

地区の面積は7.87km²、人口は約6,200人をやよいしています。

この地区に人が住み始めた歴史は古く、地区内の各所から縄文時代(中期)、弥生時代の住居址が発見されています。

古墳時代に入ると、飯伊地方で最初(5世紀半)に築造されたとみられる兼清塚をはじめ、同時代と推定される中期古墳数基が現存し、更に後期にわたる古墳の数は138基におよび、南信地方の古墳のメッカとなっています。

中世、伊賀良庄地頭北条氏の建立とされる開善寺は、今なお法灯が継承され南信第一の格式の高い禅寺としての面影を留めており、また信濃の守護職鈴岡小笠原氏の居城は、現在公園となっていて往時の遺構を伝えています。

近世に至ると経済活動が活発になり、それにつれて天竜川通船が始まり、時又港はたいへんな賑わいをみせるようになりました。そして明治時代に入り、観光目的の舟下りも開始され、この港からウェストン卿、コンノート殿下、日下部鳴鶴など内外の著名人が数多く船旅を楽しんでいます。

大正時代における竜丘の教育、文化面での事績については、今日なお高い評価を受けています。とりわけ、「郡青」の自主化運動に主導的役割を果たしたこの村の若者達の活動、竜丘小学校の名を全国に知らしめた自由画教育、或いは組合組織で発電事業に取り組んだユニークな村民性などを挙げることができます。

昭和41年、国道バイパスが地区を貫通してから、急速にこの地区も各種開発が進み様相を変えつつあります。こうした中で自然の豊かさや、先祖の残した文化遺産などの保存について地区にとっての課題は大きいものがあります。

なお、行政区画の変遷は、明治8年に藩政当時の駄科、長野原、時又、上川路、桐林の五か村に下川路村を加えて信夫村が発足。同22年には下川路村を除き五か村で竜丘村となりました。昭和31年、飯田市に合併し今日に至っています。



■四仏四獸鏡(国の重要文化財)

古墳

兼清塚

桐林地区
にある前方後円墳

墳で、飯田・下伊那地方最古の古墳(5世紀中頃の築造)といわれています。

封土は掘り崩され、現在は畑となっていますが、石室は竪穴式と推定されています。出土品は豊富ですが、中でも二神二獣鏡(竜丘小学校蔵)は、貴重な舶載鏡です。



■全景

御猿堂

上川路地区にある前方後円墳で、県の史跡指定を受けています。

石室は古墳の中腹にあり、竪穴式の趣を持った横穴式石室です。

出土品は数多く、中でも四仏四獣鏡(開善寺蔵)は一級品で国の重要文化財に指定されています。この鏡は良質の白銅で作られた大型鏡で、支那六朝時代製作のものとして推定されています。

この古墳の築造年代は、6世紀後期といわれています。

馬背塚

上川路地区
にある前方後円墳

墳で、県の史跡指定を受けています。丘上は耕地等となり、封土の裾も四面いずれも削り崩され耕地となっているため著しく原形が崩れています。

この古墳は1基に2石室を持つ特殊な構造です。特に東石室は長さ12.36m、玄室の高さは3.4mで石室の規模は飯田・下伊那地方最大です。西石室の規模も壮大です。出土品は全く確認されていません。

[注:玄室は柩を収めた部屋]



■東石室内部

塚原二子塚

桐林塚原地区にある長軸72mの大型前方後円墳で市の史跡指定を受けています。

前方部の等高線は、三角形を重ねたように四柱の屋根形をし、後円部の等高線が環状に重なって断面円錐となり、正しい前方後円墳の形を残しています。築造は5世紀後半(中期)、石室は竪穴式と推定されています。



■西側から見た全景

番匠塚

駄科地区にある直径38.4m、高さ4mの円墳です。比較的原形が保たれていますが、封土は大部分拓かれて畑となり、南方の一部は宅地となり、東方の裾もかさ崩されて小屋が建てられています。石室の有無は不明。

未発掘といわれ、ロマンを秘めた古墳です。

塚越1号

駄科地区にある長軸60mの前方後円墳です。古墳は四囲の裾が切り取られ水田となり、前方部の南面は宅地、墓地となっています。

石室は横穴式で中に入ることができません。石室の長さは9.8m。玄室の高さは2.5mと中規模の石室です。出土品は硝子製の丸玉以外は確認されていません。



■全景

史跡・名勝・祭り

開善寺

小笠原貞宗が、中国の僧、大鑑清拙を招き建武2年(1335)開山。三門を除き火災に3回あい焼失。現在の本堂・鐘楼は江戸初期の建立。伊那谷屈指の古刹で重文、重美、古墳出土品の収蔵、庭園で有名です。

置秀山開善寺。臨濟禪宗、



■開善寺三門(国の重要文化財)

念通寺

七郎兵衛が、仏恩報謝の意をこめて開山しました。明治3・40年頃造立された130体余の石仏群で有名です。

高林山念通寺。浄土宗智恩院末寺、寛永10年(1633)江戸時代初期飯田城主脇坂侯の家臣脇坂

鈴岡城址

営開始。伊賀良庄を代々の所領とし全盛期には信濃国全体を統治し足利幕府とも深い関係を持っていました。一族が争い分裂、一時滅亡。信定(松本)が再興しましたが武田信玄の攻略で天文23年落城。明治45年城址公園となり県の史跡指定も受け、現在ではつつじ祭りでも有名です。

信濃守護小笠原貞宗の第二子宗政により室町時代に造



■鈴岡公園碑

白井秘境

流約1km。黄金ヶ滝、座頭の手跡、愛染磐、乳房を連想する天竜花崗岩段層風化奇岩もあり、愛染明王他神仏信仰の地でもあります。

国道151号線より白井川上



■白井秘境黄金ヶ滝

鷲流峡

流峡と呼ばれ、南原橋～時又一帯の約1kmです。

鷲湖(諏訪湖)の流れによってできた峡谷だから鷲

長石寺と

初午祭り

灯籠流し

信仰で親しまれてきました。本堂は、諏訪の名工、立川流棟梁・立川和四郎の作で「龍」を始めその彫物は実に見事です。また、庶民と一体感のあるお寺として、伊那谷に春を告げる初午はだか祭りや、夏の風物詩灯籠流し(飯田三大祭り)が行われ賑わいを見せます。

時又長石寺は真言宗のお寺で「おかのんさま観音様」と呼ばれ、昔から養蚕や馬の



■長石寺の彫物



■初午はだか祭り

時又港

そのものです。江戸時代、天竜川に一本の橋も無かった頃から飯田盆地の通運の中心地として栄え、明治・大正期には、日本アルプスの生みの親ウェストン卿、英国コンノート殿下等が時又からの「天竜下り」の豪快さを世界で紹介しました。しかし、昭和に入り鉄道から「自動車」へと交通機関が移り変わるとともに、その面影は薄れてきました。「川と人々の暮らし」が、大変密接な関係を保ってきた「時又港」が今度はどのようによみがえるのでしょうか?

時又の歴史は交通史



■ウェストン碑

文化・芸能

自由教育

大正時代、竜丘小学校は自由教育の先進校として、その名が全国に知られていました。

山本鼎が提唱、木下紫水先生を中心に実践された自由画教育は現在の図画教育の先駆けとなるもので、第二回全国自由画展を開催した竜丘小学校では、現在もその絵画を保存し、教育史上重要な資料となっています。

駄科の獅子舞

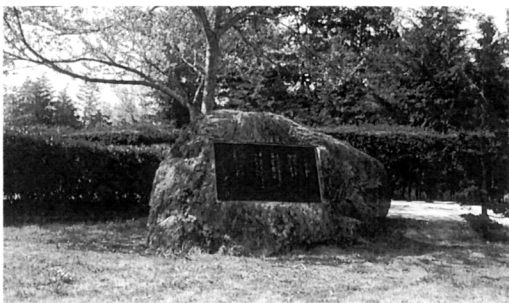
駄科には南平獅子、下平獅子、寺下獅子の3つの獅子が保存されていますが、ことに南平と下平は保存会により保存伝承され、諏訪神社の祭の際に舞われています。また北平には囃子屋台も保存されています。



■駄科の獅子

雨情の碑

自由教育実践のため、小林八十吉先生を中心に野口雨情、中山晋平を招きました。雨情の子息より伊那の龍丘の遺稿が寄贈され、小学校に詩碑として建立されました。



■野口雨情の碑

人形浄瑠璃の首



桐林は淡路系、大阪系、江戸系の三系統の伝統人形浄瑠璃の首が約50ほど保存されており、古いものは享保年代以前の作と考えられています。また上川路と時又安城にも残されていますが、上川路のものは傷みもひどく現在は飯田市美術博物館に寄託されています。

■桐林人形のかしら

市天然記念物

ギフチョウ



「春の女
神」と親しま
れ、氷河期
からの生き残
りと言われる
ギフチョウは
「かがえの
ない宝物」と
して心暖まる
保護の手が

さしのべられています。古墳と合わせて私達の
竜丘が、古くからとても住みやすかった証
です。これからもずっと大切にしましょう。

竜丘の人口動態

年 度	世帯数	男(人)	女(人)	総数(人)	人口増加率
明治22年(1889)	—	—	—	3,009	100.0
大正1年(1912)	—	—	—	3,777	125.5
昭和1年(1926)	—	—	—	4,419	146.9
昭和5年(1930)	831	2,344	2,415	4,759	158.2
昭和10年(1935)	828	2,297	2,348	4,645	154.4
昭和15年(1940)	790	2,188	2,335	4,522	150.3
昭和20年(1945)	998	2,621	3,055	5,676	188.6
昭和25年(1950)	972	2,609	2,683	5,292	175.9
昭和30年(1955)	962	2,410	2,534	4,944	164.3
昭和35年(1960)	954	2,266	2,408	4,674	155.3
昭和40年(1965)	946	2,035	2,287	4,322	143.6
昭和45年(1970)	1,086	2,137	2,430	4,567	151.8
昭和50年(1975)	1,176	2,337	2,565	4,902	162.9
昭和55年(1980)	1,383	2,527	2,831	5,406	179.7
昭和60年(1985)	1,513	2,840	3,058	5,898	196.0
平成1年(1989)	1,718	2,976	3,223	6,199	206.0

■人口増加率はM22を100とした割合(%)です。

発行にあたって

明治22年(1889)に竜丘村が誕生し
て今年(平成元年)はちょうど100年目にあたり、記念
すべき年が偶然にも平成元年という時
代の節目にもなりました。この時にあたり
時代の変遷と共に消えていった古墳と
数少ない現存する古墳、合わせて138
基を記録し、先人が守ってきた遺産を後
世に伝えられるようにマップをつくって
みました。変化してゆくふる里の中で、この

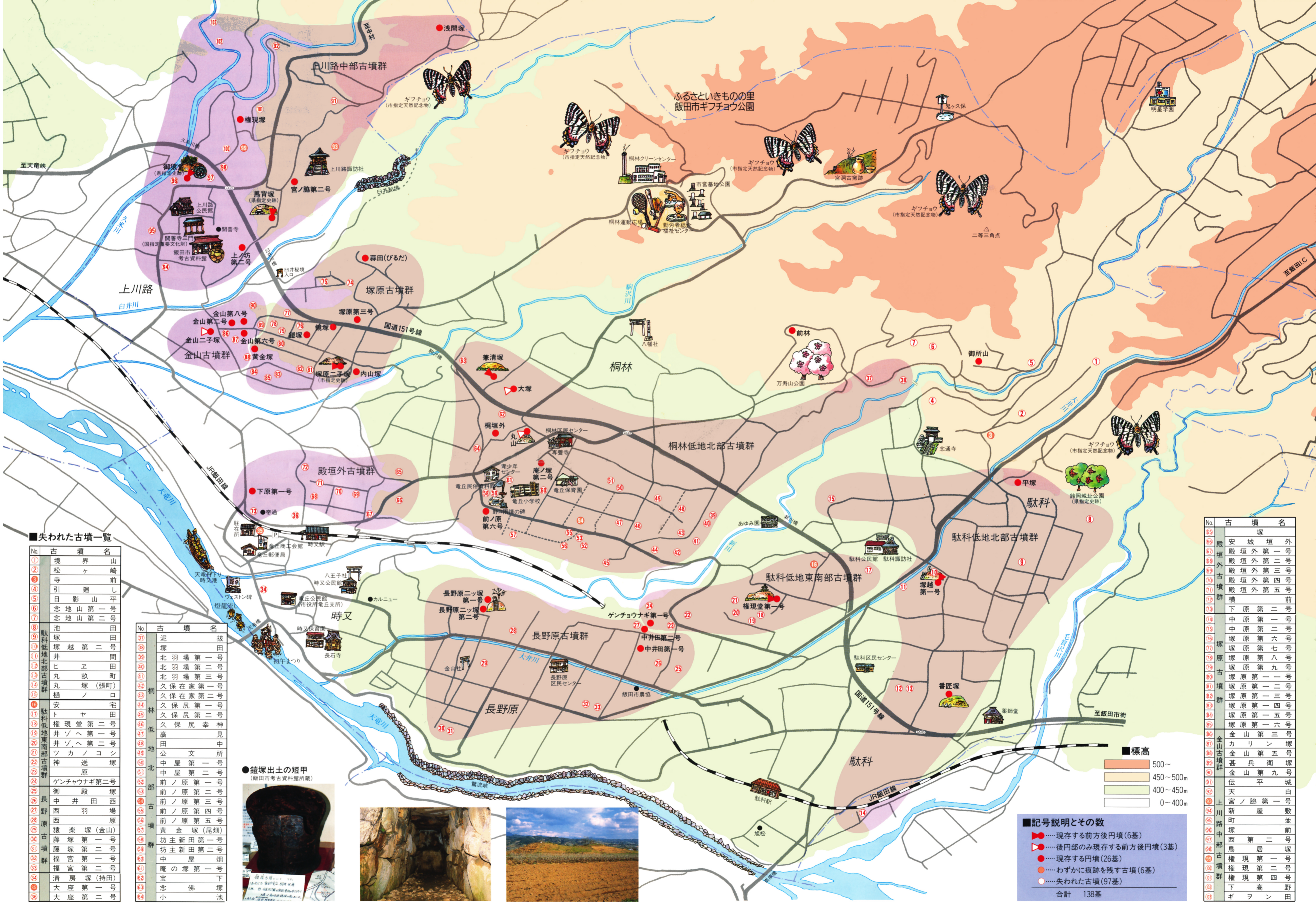
竜丘古墳群を地域のシンボルとして位
置づけ、文化の香り高い地域づくりに役
立てることができれば幸いです。
(平成元年)

【参考文献】

竜丘村誌資料及び下伊那史・丘の語り部たち
長野原大井川・写真で見る竜丘

【写真】

米山賢昭・今村周巳・竜丘村誌資料
金田和夫(飯田昆虫友の会)



■失われた古墳一覧

No	古墳名
1	境界山
2	松ヶ崎
3	寺前
4	引廻し
5	日影山
6	念地山第一号
7	念地山第二号
8	池田
9	駄科塚越第二号
10	塚井
11	北羽場第一号
12	北羽場第二号
13	北羽場第三号
14	久保在家第一号
15	久保在家第二号
16	久保尻第一号
17	久保尻第二号
18	権現堂第二号
19	井ノへ第一号
20	井ノへ第二号
21	ツカノコシ
22	神送塚
23	原
24	ゲンチャウナギ第二号
25	御殿塚
26	中井田
27	西野場
28	原
29	猿楽塚(金山)
30	藤塚第一号
31	藤塚第二号
32	福宮第一号
33	福宮第二号
34	清房塚(持田)
35	大座第一号
36	大座第二号

No	古墳名
37	泥抜
38	塚田
39	北羽場第一号
40	北羽場第二号
41	北羽場第三号
42	久保在家第一号
43	久保在家第二号
44	久保尻第一号
45	久保尻第二号
46	久保尻幸神
47	高見
48	田中
49	公文所
50	中屋第一号
51	中屋第二号
52	前ノ原第一号
53	前ノ原第二号
54	前ノ原第三号
55	前ノ原第四号
56	前ノ原第五号
57	黄金塚(尾畑)
58	坊主新田第一号
59	坊主新田第二号
60	中屋畑
61	庵の塚第一号
62	宝下
63	念佛塚
64	小池



●鎧塚出土の短甲 (飯田市考古資料館所蔵)



●馬背塚石室(県指定史跡)



●塚原二子塚全景(県指定史跡)

No	古墳名
65	塚
66	安城塚外
67	殿塚外第一号
68	殿塚外第二号
69	殿塚外第三号
70	殿塚外第四号
71	殿塚外第五号
72	横前
73	下原第二号
74	中原第一号
75	中原第二号
76	塚原第六号
77	塚原第七号
78	塚原第八号
79	塚原第九号
80	塚原第一号
81	塚原第二号
82	塚原第三号
83	塚原第四号
84	塚原第五号
85	塚原第六号
86	金山第三号
87	カリン塚
88	金山第五号
89	基兵衛塚
90	金山第九号
91	伝平城
92	天白
93	上野
94	新屋敷
95	町並
96	塚前
97	西第二号
98	鳥居塚
99	権現第一号
100	権現第二号
101	権現第四号
102	下高野
103	ギラン田

■記号説明とその数

- 現存する前方後円墳(6基)
- ◄ 後円部のみ現存する前方後円墳(3基)
- 現存する円墳(26基)
- わずかに痕跡を残す古墳(6基)
- 失われた古墳(97基)

合計 138基

